

平成 2 7 年度事務事業評価表
(平成 2 6 年度外部評価実施事業)

平成26年度外部評価結果及び市の方針一覧

No.	事務事業名	Page	外部評価	市の方針
1	ブックスタート事業	1	見直し	見直し
2	子ども読書活動推進事業	3	廃止	見直し
3	各種スポーツ教室開催事業	5	廃止	廃止
4	自然体験教室事業	7	廃止	廃止
5	社会教育委員の会議開催事業	9	見直し	見直し
6	生涯学習推進事業	11	廃止	廃止
7	守谷市美術作家展事業	13	統合	見直し
8	もりや夢の舞と響事業	15	統合	見直し
9	スポーツ・文化振興奨励事業	17	見直し	見直し
10	いばらき若者塾参加補助事業	19	廃止	廃止
11	大野地区公民館運営事業	21	廃止	見直し
12	守谷市・常総市・坂東市・ハンドボール協議振興会	23	見直し	見直し
13	アーカスプロジェクト参画事業	25	見直し	見直し

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [639]

位置 付け	事務事業名	ブックスタート事業										担当	教育委員会		部	中央図書館		課
												担当	奉仕グループ		担当	内線	702	
	総合計画 体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本 事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		
	計画年度	平成 15 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード	001-100405-05-			外部評価実施年度				外部評価進行管理				経費区分	未設定				
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100405-01-								
事務事業の 目的と 成果・ コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）							
	3 ~ 4 か月児健康診査の対象者とその保護者										A	3 ~ 4 か月児健康診査の対象人数						
											B							
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）							
	【内容】赤ちゃんと保護者が心を通わせあうひとときを作るきっかけとして絵本（ブックスタートパック）を紹介する。また、その親子、家族の図書館利用を促進させる。 【やり方、手順】保健センターでの3 ~ 4 か月児健康診査の際に、絵本1冊（2冊から1冊を保護者が選ぶ。平成26年度までは4冊から2冊を選んだ）とパンフレット、図書館の案内などをひとまとめにした「ブックスタートパック」を無償配布する。ただ配布するだけではなく、ボランティアの協力によりブックスタートの趣旨の説明や、実際に読み聞かせなどを行っている。また、人口の増加を受けて、転入者にブックスタートをお知らせしている。										C	ブックスタートを実施した回数						
											D							
											手段・備考							
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）							
	ブックスタートパックの配布とブックスタートの趣旨の説明及び読み聞かせの実践を行うことにより、絵本を使った親子のコミュニケーションの促進を促す。また、図書館を利用するきっかけとなり市民の教養の基礎を築き、文化・教育の発展に寄与する。										E	ブックスタートパックを配布した人数						
											F							
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	677	700	650	700	700										
	B	対象指標																
	C	活動指標	回	25	25	25	24	24										
D	活動指標																	
E	成果指標	人	666	700	652	700	700											
F	成果指標																	
G 事業費	計	千円	1,221	1,184	1,181	651	791											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
	カ 一般	千円	1,221	1,184	1,181	651	791											
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	1,221	1,184	1,181	651	791											
K	臨職賃金等	千円	120	120	120	120	120											
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ + オ・使用料 その他財源									
事業費内 訳	27年度		28年度				29年度		30年度									
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額								
	需用費	651	需用費	791														
	計	651	計	791	計		計											

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																	
	親子のコミュニケーションとして、親子が一緒に絵本を楽しむことを目的に、市の子育て支援策として、平成15年度から実施している。また、平成19年3月に「守谷市子ども読書活動推進計画」が策定され、ブックスタートの実施が明文化された。		参加者からは「赤ちゃんもおはなしをちゃんと聞くん」と喜ぶ意見が多い。また、協力のボランティアからも「赤ちゃんの笑顔から元気がもらえる」と好評である。また、この事業がきっかけとなり、絵本や図書館を活用しているという市民の意見がある。		予算削減を受け、平成27年度から配布冊数が1冊（2冊から保護者が1冊を選ぶ）に変更。また、コットンバッグはカラーから単色刷りに変更した。																	
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																	
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	特になし		削減額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） 増加額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） ☐ 予算への影響なし																	
目的 妥当性 （必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		守谷市子どもの読書活動推進計画において、重点施策として取り組んでいることから妥当である。																			
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																					
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		絵本を手渡し、読み聞かせを行うことにより、読書の楽しさを知ってもらう事業である。市民に自由に学習する機会を持ってもらうことに結びついている。																			
	○ 貢献度大きい（理由→） ● 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																					
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		絵本の読み聞かせを行うことで親子のコミュニケーションが促進され、幼児から本と慣れ親しもらうための事業で、ほとんどの参加者に「ブックスタートバック」を渡しているため、これ以上の向上の余地はない。																	
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し																			
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		現状ボランティアや非常勤職員を活用するなど、最低限の費用で実施しているため、削減する余地はない。																			
	○ ある ● ない																					
改革・ 予算 反映案【 二次評価 結果】	改革概要・改革により期待される効果																					
	読み聞かせボランティアや非常勤職員を活用するなど、ブックスタートバックの購入費のみで実施しているため、削減する余地はない。				改革方向性：現状維持 コスト方向性 <table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			削減	維持	増加	向上				維持				低下			
		削減	維持	増加																		
	向上																					
	維持																					
	低下																					
改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
特になし				特になし																		
改革のスケジュール表																						
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度															
計画																						
特記事項																						

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [638]

位置 付け	事務事業名	子ども読書活動推進事業										担当	教育委員会		部	中央図書館		課	
	総合計画 体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本 事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供			
	計画年度	平成 19 年度 ~ 平成 28 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計			
	財務会計コード	001-100405-04-			外部評価実施年度					外部評価進行管理					経費区分	未設定			
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100405-01-									
事務事業の 目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）								
	子ども（中学生以下）										A	児童・生徒数（中学生以下）							
											B								
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）								
	【内容】守谷市子ども読書活動推進計画に基づく施策に掲げた事業について、各事業の実施及び関係機関の実施状況の把握を行う。平成25年2月第二次守谷市子ども読書活動推進計画を策定した。 【やり方、手順】推進計画の進行管理を行う。										C	守谷市の子ども読書活動推進計画の目標に掲げた事業の実施項目							
											D	子ども読書活動推進会議開催回数							
											手段・備考	H27年度より、守谷小・松前台小の保護者等の読み聞かせサークルへの講師による養成講座を開催する。							
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）								
	子どもに読書してもらう										E	推進計画に基づく施策の取組目標達成件数							
											F	表彰をうけた小中学生の数（小学4～6年生は50冊以上、中学生は30冊以上）							
	4 事業量・コスト・指標の推移																		
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画							
	A	対象指標	人	10,197	10,197	10,376	10,376												
	B	対象指標																	
	C	活動指標	件	40	40	40	40												
D	活動指標	回	1	1	1	1													
E	成果指標	件	11	18	20	25													
F	成果指標	人	1,670	1,700	1,695	1,695													
G 事業費	計	千円	41	50	50	70													
	ア 国	千円																	
	イ 県	千円																	
	ウ 地方債	千円																	
	エ 使用料	千円																	
	オ その他	千円																	
	カ 一般	千円	41	50	50	70													
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0												
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0												
J	トータルコスト	千円	41	50	50	70	0												
K	臨職賃金等	千円	0	0	0	0													
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名、補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源										
事業費内 訳	27年度		28年度				29年度				30年度								
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額									
	報償費	70																	
	計	70	計		計		計		計										

事務事業評価表[B表] 継続・通常

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																		
	子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、平成19年3月に「守谷市子ども読書活動推進計画」（第一次）を、平成25年2月に「守谷市子ども読書活動推進計画」（第二次）を策定した。		子ども読書活動推進計画に基づく施策及び具体的な取組の計画的かつ効果的な推進を図るため、平成19年6月に守谷市子ども読書活動推進会議を設置した。 平成25年6月に第2次守谷市子ども読書活動推進会議を設置し、推進を図る。		特になし																		
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																		
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	毎年1回、子ども読書推進会議を開催し、推進計画に基づく施策の取組目標の達成度を図っている。		削減額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） 増加額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） ☐ 予算への影響なし																		
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		子どもの読書活動の推進は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき策定された市の重要な施策の一つであり妥当である。																				
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																						
有効性	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		子どもの読書活動を推進することは、本に親しみ、自由に学習できる機会を与えることに結びつくため、貢献度は大きい。																				
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																						
効率性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		小中学校の学校図書館データベース化を行い、図書資料の適正な管理及び有効活用を行うことは、自由に学習できる機会を与えることにつながっており成果はあがっているが、これ以上の向上余地はない。																		
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し																				
改革概要・改革により期待される効果	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		子ども読書活動推進計画委員はすべて無報酬であり、削減余地はない。																				
	○ ある ● ない																						
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果				改革方向性：拡充 コスト方向性																		
	平成25年2月に設置した第2次守谷市子ども読書活動推進計画の計画満了期間が平成29年3月である。 よって第3次守谷市子ども読書活動推進計画（案）を第2次計画期間内で策定しなければならない。				<table><tr><td rowspan="4">成果方向性</td><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		成果方向性		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
	成果方向性		削減	維持	増加																		
		向上																					
		維持																					
		低下																					
	改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
	第3次守谷市子ども読書活動推進計画策定				特になし																		
	改革のスケジュール表																						
	実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度															
計画	第3次守谷市子ども読書活動推進計画																						
特記事項																							

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [605]

位置付け	事務事業名	各種スポーツ教室開催事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
												担当	スポーツグループ		担当	内線	277	
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	51	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		
	計画年度	平成 14 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード	001-100501-09-			外部評価実施年度		平成18年度		外部評価進行管理				経費区分	未設定				
	予算概算要求区分		未設定		成果設定年度				備考		001-100501-08-							
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）												対象指標名（対象の大きさを示す指標）					
	(対象)市内在住・在勤者 (必要とされる理由)生涯スポーツへの参加のきっかけづくりを図る												A	常住人口				
													B	守谷市の従業員数（平成24年度経済センサス基礎調査より）				
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）												活動指標名（手段や活動内容を示す指標）					
	アフターファイブスイミング教室は5月から7月の平日8日間開催，初心者水泳教室は9月から10月の平日5日間開催，水中ウォーキング教室は3月初旬の土日2日間開催。会場は共に常総運動公園室内温水プールで実施。 市内在住・在勤者を対象とした健康体力づくりを目的に開催。												C	水泳教室の開催日数				
													D	水中ウォーキング教室の開催日数				
													手段・備考	参加者数が伸び悩んでいる。				
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）												成果指標名（意図達成度合を示す指標）					
	初心者が水に慣れ、泳ぎをマスターできるようにすることにより，健康増進と体力の向上を図る。また，水中ウォーキングでは，浮力による膝への負担を軽減させる運動を習得することにより，健康増進への一助とする。												E	参加人数				
													F	期間中休まず参加できた人数				
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	63,313	63,856	63,856	64,326	64,326	64,326									
	B	対象指標	人	21,632	21,632	20,653	0	0										
	C	活動指標	日	5	13	13	0	0										
D	活動指標	日	0	2	2	0	0											
E	成果指標	人	38	120	65	0	0											
F	成果指標	人	35	120	39	0	0											
G 事業費	計	千円	138	178	152	0	0											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円	59	160	85	0	0											
	カ 一般	千円	79	18	67	0	0											
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	138	178	152	0	0											
K	臨職賃金等	千円																
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ＋オ・使用料 その他財源									
									参加費		41							
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度							
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額								
		0		0		0												
		0		0		0												
	計	0	計	0	計		計											

事務事業評価表[B表] 継続・通常

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																		
	スポーツ基本法に定められている公共団体の責務として、市民の健康増進と体力の向上を図るものとして開催。		平日の昼間に開催しているため、参加者が高齢者や主婦などに偏ってしまう。 外部評価において、参加者の減少、継続活動への貢献度が指摘され、関係団体との連携を視野に入れた事業の再構築について提言があった。		参加者が活動しやすい時間帯、日程を設定した。																		
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																		
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	参加者を増やすため、参加しやすい時間帯、日程に変更して実施した。		削減額 事業費 (千円) 人件費 (千円) 増加額 事業費 (千円) 人件費 (千円) ☒ 予算への影響なし																		
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		市民の健康増進と体力向上を目的として実施している事業であり妥当である。																				
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																						
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		教室を通じて、生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援をしている。さらに、市民の健康づくりへの意識向上と市民交流が図られている。																				
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																						
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		水泳教室では水泳の楽しさを、水中ウォーキング教室では健康の増進と体力の向上を図ることが目的なので、これ以上の成果の向上はない。																		
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地・大 ○ 成果向上余地・中 ● 成果向上余地・小・無し																				
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		参加費で指導者謝金・昼食代を賄う計画で実施しているが不足分を市が賄っていることから削減余地はない。																				
	○ ある ● ない																						
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果																						
	スポーツ推進委員の活動として、実技指導、後続活動につながる組織づくりを検討する。また、市・企業・外部団体との連携を視野に入れ、事業の再構築を検討する。				改革方向性：休止廃止																		
					コスト方向性																		
					<table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				削減	維持	増加	向上				維持				低下			
						削減	維持	増加															
	向上																						
	維持																						
	低下																						
	改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
特になし				特になし																			
改革のスケジュール表																							
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度				28年度				29年度												
計画																							
特記事項																							

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [564]

位置 付け	事務事業名		自然体験教室事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
													担当	生涯学習グループ		担当	内線	277	
	総合計画 体系		政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本 事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		
	計画年度		昭和 61 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型		未設定	会計区分		一般会計
	財務会計コード		001-100401-12-			外部評価実施年度		平成19年度		外部評価進行管理				経費区分		未設定			
予算概算要求区分		未設定			成果設定年度				備考		001-100401-15-								
事務事業の 目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）								
	小学４～６年生 （必要とされる理由）日常生活において不足しがちな自然とのふれあいを体験し、グループ学習を通して協調性を身に付ける。										A	小学４～６年生数							
											B								
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）								
	夏休みに、小学校４～６年生を対象として、日常生活において不足しがちな自然とのふれあいを体験させると共に、学校を超えた児童の交流の場を提供する。また、グループ学習を通して、協調性を身に付けさせる。 〔平成26年度概要〕 内容 カヌー、ビオトープ観察など 実施場所 千葉県立水郷小見川少年自然の家 参加者 30人 引率者 8人（職員2人、外部6人） 参加費 1,000円										C	引率者数（職員/外部）							
											D	参加希望者数							
											手段・備考	市内NPO法人との協働事業であるが、NPO側の都合で土・日曜日の開催を余儀なくされている。カヌー体験は人気があるが、施設の受け入れ態勢から、参加人数を増やすことができない。							
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）								
	自然とのふれあいを通して、協調性や感受性の豊かな子どもを育てる。										E	参加者数							
											F								
	4 事業量・コスト・指標の推移																		
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画							
	A	対象指標	人	2,060	2,113	2,113													
	B	対象指標																	
	C	活動指標	人	8(2/6)	8(2/6)	8(2/6)													
D	活動指標	人	55	60	30														
E	成果指標	人	40	36	30														
F	成果指標																		
G 事業費	計	千円	94	187	78														
	ア 国	千円																	
	イ 県	千円																	
	ウ 地方債	千円																	
	エ 使用料	千円																	
	オ その他	千円	40	40	35														
	カ 一般	千円	54	147	43														
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0												
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0												
J	トータルコスト	千円	94	187	78	0	0												
K	臨職賃金等	千円																	
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ+オ・使用料 その他財源										
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度								
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額									
	計	0	計		計		計		計										

事務事業評価表[B表] 継続・通常

[564]

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																	
	子ども達に自然に親しむ機会を与える目的で昭和61年度に開始された。		参加者や保護者には喜ばれているが、参加希望者は減少している。		平成21年度までは少年自然の家等を利用しての宿泊学習であったが、平成22年度からNPO法人との協働事業となり、宿泊を取りやめた。平成24年度から千葉県立水郷小見川少年自然の家を利用し、体験する機会が少ないカヌーの基礎練習を行っている。																	
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																	
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	施設での活動時間を十分に取れるよう、施設までのルートを再検討し、移動時間の短縮を図った。また、片付けに手間がかかるカレーを止め、焼きそばに変えた。その結果、カヌー体験のほかに生物観察を実施することができた。		削減額 事業費（千円） 人件費（千円） 増加額 事業費（千円） 人件費（千円） ☒ 予算への影響なし																	
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		都市化が進む守谷市では、普段の遊びの中で自然とふれあう機会が少なくなっていることから、次代を担う子どもたちに、共同生活をしながら自然の大切さを学んでもらう場を提供することが目的であり妥当である。																			
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		市民団体との協働事業であり、次代を担う子どもたちに自然体験の楽しさや共同生活のルールを学ばせることができ、「市民による健全育成活動の推進」に貢献している。しかし、参加人数が少ないので、事業の見直しが必要。27年度は休止することとした。																			
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地(可能性)は、ありますか？		子どもたちに、普段の遊びでは経験できない体験をさせ、同時に自然への興味を持たせることができた。しかし、カヌー体験を取り入れてから初めて、応募者数が募集定員を割り込んだ。事業内容（プログラム）を抜本的に見直す必要がある。																	
	○ あがっている ● 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し																			
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		事業を見直し、参加者にはコストに見合う負担をしていただく。また、NPO法人に主体的に事業を進めてもらうことで、事務負担を削減する。																			
	● ある ○ ない																					
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果																					
	26年度には募集定員を下回った。また、千葉県立水郷小見川少年自然の家では、これ以上の受入れが困難な状況であるので、27年度は一旦休止して、抜本的な事業の見直しを行う。				改革方向性：休止廃止 コスト方向性																	
					<table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			削減	維持	増加	向上				維持				低下			
		削減	維持	増加																		
	向上																					
	維持																					
	低下																					
改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
平成22年度から協働で取り組んできたNPO法人と、28年度の再開を目指して協議していく。28年度の予算編成時期に新プランが間に合えば予算を計上し、間に合わなかった場合は引き続き協議していく。				平成26年度の当初予算を基本とする。																		
改革のスケジュール表																						
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度															
計画	応募者減となった要因の分析																					
	28年度に向けた企画立案																					
	予算計上（プランがまとまった場合）																					
特記事項																						

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [568]

位置付け	事務事業名	社会教育委員の会議開催事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
												担当	生涯学習グループ		担当	内線	271	
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		
	計画年度	昭和 39 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード	001-100401-04-			外部評価実施年度		平成22年度		外部評価進行管理		対象		経費区分	未設定				
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100401-02-								
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）												対象指標名（対象の大きさを示す指標）					
	（対象）社会教育委員 （必要とされる理由）社会教育に関する事業計画・立案等を協議し、社会教育活動の活性化を図る。												A	委員数				
													B					
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）												活動指標名（手段や活動内容を示す指標）					
	守谷市の社会教育に関する事業計画・立案等を協議し、社会教育活動の課題解決や活性化を図る。 平成26年度は下記事項を協議 ・平成26年度生涯学習推進事業について ・平成26年度主な生涯学習関係事業及び予算について ・社会教育（生涯学習）分野における課題について ・社会教育委員の活動について ・社会教育関係団体の活性化について												C	会議の回数				
													D					
													手段・備考	・社会教育・生涯学習推進に関する課題等が見えていない。 ・委員が各団体等で活動してきたことや学習してきたことが活かされていると言えない。				
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）												成果指標名（意図達成度合を示す指標）					
	・社会教育に関する計画・立案等を協議する。 ・市民の社会教育活動を支援し、活性化につなげる。												E	会議への参加人数				
													F	審議案件数				
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	20	20	20	20	15										
	B	対象指標																
	C	活動指標	回	3	3	5	5	5										
D	活動指標																	
E	成果指標	人	46	60	61	60	60											
F	成果指標	件	5	6	5	5												
G 事業費	計	千円	597	767	482	447	487											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
	カ 一般	千円	597	767	482	447	487											
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	597	767	482	447	487											
K	臨職賃金等	千円																
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名、補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源									
事業費内訳	27年度		28年度				29年度		30年度									
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額										
	報酬	406	報酬	448														
	旅費	41	旅費	39														
	計	447	計	487	計		計											

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																	
	社会教育法第15条に基づき昭和31年に社会教育委員を委嘱した。 守谷市社会教育委員に関する条例に基づき、20人の委員を委嘱している。		社会教育に関する事業への住民の要望が多種・多様化しており、社会教育委員の専門的知識が必要とされている。 平成26年度外部評価において、委員数が多すぎて議論の効率性を欠くため、大幅に削減すべきとの提言があった。		平成25年度企画委員会を設置し、今後の市の生涯学習に関する指針等を協議する。 平成26年度生涯学習指導者登録制度のあり方、社会教育関係団体の活性化について協議する。																	
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																	
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	生涯学習推進の方向性、事業実施における課題等について市に提言することを目的として活動した。		削減額 事業費（千円） 人件費（千円） 増加額 事業費（千円） 人件費（千円） ☐ 予算への影響なし																	
目的 妥当性 （必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？ （事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		社会教育法に基づき設置する委員であり、社会教育の推進・振興に関する諮問機関であるため妥当である。																			
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																					
有効性	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		社会教育の推進に関し、教育委員会に助言し諮問に対する答申を行う機関であり、社会教育の諸問題について審議する会議であるため、広義の意味で「自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供」に貢献している。																			
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																					
効率性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		社会教育関係団体の代表による委員構成のため、多様な考え方や意見を元に諸問題について協議することができ、事業改善や市民目線での事業構築が期待できる。																	
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		● 成果向上余地・大 ○ 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し																			
改革・予算反映案【二次評価結果】	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		年2回の会議では成果の向上が見込めないため、今後、会議回数を増やすとコストの削減は難しいが、委員数を削減し、議論の効率化を図る。																			
	○ ある ● ない																					
改革・スケジュール	改革概要・改革により期待される効果				改革方向性：拡充 コスト方向性																	
	社会教育委員の役割と責任を明確化し、市の社会教育・生涯学習推進の方向性、事業実施における課題解決等に関する提言をする。 委員数を再検討し、議論の効率化に結び付けられるよう会議の役割について見直しを図る。				<table><tr><td rowspan="3">成果方向性</td><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		成果方向性		削減	維持	増加	向上				維持				低下		
成果方向性		削減	維持	増加																		
	向上																					
	維持																					
低下																						
特記事項	改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																	
	第1 四半期～第3 四半期：全体会議・企画委員会議 第1 四半期～第3 四半期：提言書作成 第4 四半期：提言書の提出 平成28年度以降 委員数削減				委員報酬 7,000円×3人×2回＝42,000円減 費用弁償 100円×3人×2回＝600円減																	
計画	改革のスケジュール表																					
	実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)		27年度		28年度		29年度													
計画	社会教育委員の会議（全体会議）																					
	社会教育委員の会議（企画委員会議）																					
	提言書作成																					
	提言書の提出																					
	委員数削減																					
特記事項																						

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [571]

位置付け	事務事業名	生涯学習推進事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課		
												担当	生涯学習グループ		担当	内線	271			
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供				
	計画年度	平成 03 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定		会計区分	一般会計			
	財務会計コード	001-100401-08-			外部評価実施年度				外部評価進行管理				経費区分		未設定					
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100401-09-										
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）									
	（対象）市民 （必要とされる理由）生涯学習の推進と地域コミュニティの創出										A	常住人口								
											B									
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）									
	地域に根ざした生涯学習を推進するために、公民館まつりの一環として、公民館運営協力員の企画立案で、学びを通して地域の交流を推進する事業を展開する。 平成26年度事業 ・日時 平成26年6月8日（日） ・場所 高野公民館 ・内容 高野寄席（県内の学生による落語） 落語の語源や噺の構成などを知り、伝統的な話芸を楽しむ。										C	地域の諸団体の協力体制								
											D									
											手段・備考	・地域コミュニティを活用した生涯学習の推進方法について工夫が必要である。 ・地域の文化・自然など地域資源の活用を検討する。								
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）									
	生涯学習活動を行うための、きっかけを提供する。										E	推進事業の参加者数								
											F									
	4 事業量・コスト・指標の推移																			
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画								
	A	対象指標	人	63,313	63,856	63,856	64,326	64,326	64,326											
	B	対象指標																		
	C	活動指標	団体	4	4	9	0	0												
D	活動指標																			
E	成果指標	人	250	100	154	0	0													
F	成果指標																			
G 事業費	計	千円	110	147	70	0	0													
	ア 国	千円																		
	イ 県	千円																		
	ウ 地方債	千円																		
	エ 使用料	千円																		
	オ その他	千円																		
	カ 一般	千円	110	147	70	0	0													
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0													
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0													
J	トータルコスト	千円	110	147	70	0	0													
K	臨職賃金等	千円																		
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ + オ・使用料 その他財源											
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度									
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額										
		0		0																
	計	0	計	0	計		計													

[571]

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまく環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																
	生涯学習の充実が求められ、サークルの成果発表や新たな生涯学習の体験教室などを行うイベントを開催し、市民が生涯学習を行うきっかけとなるイベントとして平成7年度から開催。		団塊の世代が定年を迎え、高齢化社会の進展によりますます生涯学習の必要性が高まっている。 平成26年度外部評価で、事業の趣旨には賛同するが、現状の内容では、趣旨とかけ離れているとの意見があった。		単独で行う形態から、市内公民館4館持ち回りで公民館まつりと同日同会場で講演会・体験教室等を実施した。																
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	高野公民館まつり実行委員と公民館運営協力員が事業協力し、市民の学習の場や機会づくりに関わり、公民館に足を運ぶきっかけづくりを進めた。		削減額 事業費（千円） 人件費（千円） 増加額 事業費（千円） 人件費（千円） ☐ 予算への影響なし																
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		市民の学習の場や機会を創出することは市の役割であり、生涯学習活動のきっかけづくりを進めているので妥当である。																		
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																				
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		「自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供」を主にした事業を展開していることから貢献度は大きい。																		
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																				
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？	3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？	生涯学習活動のきっかけづくりと啓発を目的に継続実施しており、一定の成果は見られるが、コミュニティの創出を視野に入れた地域資源の活用など、さらなる工夫と事業再構築の検討をしなければ、向上余地は小さい。																		
	○ あがっている ● 横ばい、停滞している ○ 低下している	○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し																			
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		市民に対する生涯学習活動の啓発を図るものであり、経費は最小限に抑えているが、指定管理の範囲で実施する「公民館まつり」を代用事業とすれば、コスト削減を図れる。																		
	● ある ○ ない																				
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果																				
	・公民館まつりを継続支援していくことで、地域住民が公民館に親しみをもち、参加者同士の交流によるコミュニティ創出につなげる。 ・「学び」による地域の教育力や地域コミュニティの向上を目指し、地域の文化・自然の活用、体験活動を通じた生涯学習を推進するため、一旦休止し、事業の再構築を図る。				改革方向性：休止廃止 コスト方向性 <table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			削減	維持	増加	向上				維持				低下		
	削減	維持	増加																		
向上																					
維持																					
低下																					
改革の時期・スケジュール			改革実施による予算・人員の増減																		
第4四半期：公民館まつりの開催 平成28年度：生涯学習推進事業再構築の検討 平成29年度：再構築事業の実施（単独事業として開催）			講師謝金 100,000円減																		
改革のスケジュール表																					
実施事項の項目名		実施時期（単位：四半期）	27年度		28年度		29年度														
計画	公民館まつりの開催																				
	事業再構築の検討																				
	再構築事業の実施																				
特記事項																					

事務事業評価表[A表] 継続・通常

外部評価対象事業 ○ 対象（実施年度：）

- 非対象

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [588]

位置付け	事務事業名		守谷市美術作家展事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課		
													生涯学習 G		担当	内線	277				
	総合計画体系		政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	52	親しみを感じる芸術・文化の推進				
	計画年度		昭和 60 年度 ～ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		未設定	評価類型	未設定	会計区分	未設定					
	財務会計コード		001-100401-19-			外部評価実施年度					外部評価進行管理					経費区分	未設定				
	予算概算要求区分		未設定		成果設定年度					備考											
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）										
	・市民 ・市にゆかりの美術作家 （必要とされる理由） ・芸術文化活動を活性化させ、地域への求心力を高める。										A	常住人口									
											B										
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）										
	守谷市在住又は出身など、市にゆかりの美術作家を周知する場として、展示会を開催する。 展示期間：2月28日～3月8日 会場：市民ギャラリー										C	開催日数									
											D										
											手段・備考	・市民ギャラリーは、元々多目的スペースとして建設されているため構造上の欠点があり、専門の展示施設の建設を要望されている。									
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）										
	（市民に対して） ・市にゆかりの美術作家を知ってもらう。 ・美術鑑賞の機会を設け、芸術活動への関心を高める。 （作家に対して） ・他ジャンルの作家や市民との交流を推進し、創作活動意欲や郷土意識を高める										E	参加者数（出品者数）									
											F	来場者数									
	4 事業量・コスト・指標の推移																				
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画									
A	対象指標	人	63,313	63,856	63,856	64,326	64,326	64,326													
B	対象指標																				
C	活動指標	日	9	9	9	9	9														
D	活動指標																				
E	成果指標	人	60	65	56	60	62														
F	成果指標	人	917	1,000	997	1,000	1,000														
G 事業費	計	千円	160	776	565	180	180														
	ア 国	千円																			
	イ 県	千円																			
	ウ 地方債	千円																			
	エ 使用料	千円																			
	オ その他	千円																			
	カ 一般	千円	160	776	565	180	180														
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0														
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0														
J	トータルコスト	千円	160	776	565	180	180														
K	臨職賃金等	千円																			
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名・補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料				その他財源								
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度										
	事業内容		予算額		事業内容		計画額		事業内容		計画額		事業内容		計画額						
	賃金		90		賃金		90														
	旅費		2		旅費		2														
	需用費		88		需用費		88														
	計		180		計		180		計				計								

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点						
	昭和60年度に県展入選者が多数出たことから、県展入選者を中心に「郷土作家展」の名称で開始された。		新規加入会員の多くが、これまで東京を中心とする都市で活動していた経験があり「守谷の作家」の仲間入りを望むようになっている。		23年度に会場を市民ギャラリーに変更。24年度からは、出品作家に展示パネルの設置や撤去を手伝ってもらっている。						
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映						
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ● 改善 ○ 統合 ○ 現状維持	具体的内容	30回作品集及びチャリティーでの作品販売が実現できれば、来場者を増加できる。また、それに伴って市の文化（魅力）を広くPRできる。			削減額		事業費（千円）		人件費（千円）	
						増加額		事業費（546千円）		人件費（千円）	
					☐ 予算への影響なし						
目的 妥当性 （必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？ （事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）			市民が芸術文化に親しむ機会を提供しており、生涯学習を推進する上で妥当である。							
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い										
		2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？			市の芸術文化の振興のみならず、守谷の文化をPRすることにも繋がっており、親しみを感じる芸術・文化の推進への貢献度は大きい。						
		● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）									
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		30回記念作品集を発行したところ、23年度以降最高の来場者数を記録した。ワークショップを開催するなど、会場に来る楽しみを作り出せば、成果は上がると思われる。						
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）				既に印刷製本費を削減しており、これ以上の削減は困難であるので、現コスト内で内容を充実させる。						
	○ ある ● ない										
改革・ 予算 反映案【 二次評価 結果】	改革概要・改革により期待される効果										
	ワークショップ（体験教室）を開催し、来場者の増を図る。						改革方向性：拡充				
							コスト方向性				
							成果方向性	削減	維持	増加	
								向上			
	維持										
	低下										
改革の時期・スケジュール						改革実施による予算・人員の増減					
12月までに実行委員会で決定。						特になし					
改革のスケジュール表											
		実施時期（単位：四半期）		27年度			28年度			29年度	
実施事項の項目名											
計画	ワークショップの協議										
	広報等での周知										
	実施										
特記事項											

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [589]

位置付け	事務事業名		もりや夢の舞と響事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
													担当	生涯学習 G		担当	内線	277	
	総合計画体系		政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	52	親しみを感じる芸術・文化の推進		
	計画年度		昭和 60 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード		001-100401-20-			外部評価実施年度		平成19年度		外部評価進行管理				経費区分	未設定				
予算概算要求区分		未設定			成果設定年度				備考		001-100401-25-								
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）												対象指標名（対象の大きさを示す指標）						
	市民 （必要とされる理由） 優れた音楽や伝統芸能を鑑賞する機会を提供し、守谷に住んでいることの喜びを事關してもらう。												A	常住人口					
													B						
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）												活動指標名（手段や活動内容を示す指標）						
	市文化協会の指導者として5年以上活動している、音楽家や芸能家の活動内容を周知する場として開催。洋楽と伝統芸能の2部構成としている。 【26年度活動概要】 開催日：6月1日 会場：中央公民館ホール 実行委員会：4～5月で3回開催												C	開催日数					
													D						
													手段・備考	・観客動員数が伸び悩んでいる。					
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）												成果指標名（意図達成度合を示す指標）						
	・市内で指導者として活動している音楽家、芸能家の方たちを知ってもらう。 ・音楽や伝統芸能への関心を高める。												E	出演者数					
													F	来場者数					
	4 事業量・コスト・指標の推移																		
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画							
	A	対象指標	人	63,313	63,856	63,856	64,326	64,326	64,326										
	B	対象指標																	
	C	活動指標	日	1	1	1	1	1											
	D	活動指標																	
	E	成果指標	人	12	23	18	17	18											
	F	成果指標	人	336	350	367	360	360											
	G 事業費	計	千円	78	92	80	93	93											
		ア 国	千円																
イ 県		千円																	
ウ 地方債		千円																	
エ 使用料		千円																	
オ その他		千円																	
	カ 一般	千円	78	92	80	93	93												
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0												
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0												
J	トータルコスト	千円	78	92	80	93	93												
K	臨職賃金等	千円																	
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ + オ・使用料 その他財源										
事業費内訳	27年度		28年度				29年度		30年度										
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額											
	需用費	93	需用費	93															
	計	93	計	93	計		計												

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点					
	もりや夢の舞と響は、芸能・音楽の分野で活動する指導者を一堂に会した公演として、平成15年度から始まった。		出演者が文化協会会員に限られているが、会員以外から「出演したい」との要望が寄せられている。		24年度は、中央公民館の耐震改修工事を施工していたため、音楽部門のみ3月に開催。25年度は、伝統芸能部門のみ6月に開催した。					
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映					
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	出演者の要件を満たさない方には賛助として出演いただき、マンネリ化を防いでいる。		削減額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） 増加額 事業費（ 千円） 人件費（ 千円） ☒ 予算への影響なし					
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）				市内で活動するプロ（指導者）の演奏等を、気軽に鑑賞できる機会になっており、市民が芸術文化に親しむきっかけづくりとなっていることから妥当である。					
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い									
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		市の芸術文化振興、親しみを感じる芸術・文化の推進に繋がっており、貢献度は大きい。							
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）									
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		ヴァイオリンや管楽器、民舞などの新ジャンルを加えることができれば、固定ファン以外の来客が期待できる。					
	○ あがっている ● 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ● 成果向上余地 中 ○ 成果向上余地 小 無し							
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		すでに印刷費を削減しており、これ以上の削減は困難である。現コストの範囲内で、より多彩な演目を実施する。							
	○ ある ● ない									
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果									
	ヴァイオリンや管楽器、民舞などの新ジャンルを加えることを検討する。						改革方向性：拡充			
							コスト方向性			
								削減	維持	増加
							向上			
							維持			
							低下			
改革の時期・スケジュール						改革実施による予算・人員の増減				
28年度の実施に向け、文化協会と年間を通して協議する。						特になし				
改革のスケジュール表										
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度			28年度			29年度	
計画	協議・検討									
特記事項										

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [598]

位置付け	事務事業名	スポーツ・文化振興奨励事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
												担当	スポーツグループ		担当	内線	276	
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	51	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援		
	計画年度	平成 14 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定		会計区分	一般会計	
	財務会計コード	001-100401-17-			外部評価実施年度		平成18年度		外部評価進行管理				経費区分		未設定			
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100401-17-								
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）							
	守谷市在住、在学者（必要とされる理由）全国大会出場の功績を挙げたものを支援するとともに、守谷市におけるスポーツ・文化の振興を図る。										A	守谷市人口（住民基本台帳）						
											B	スポーツ少年団登録チーム数						
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）							
	守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱に基づき、奨励金と記念品（メダル）を交付する。奨励金の金額は交付対象の全国大会出場又は上位入賞で1万円、アジア大会（国内2万円、国外3万円）、世界大会（国内3万円、国外5万円）オリンピック（国内5万円、国外10万円）守谷市スポーツ少年団の活動に対し、予選を勝ち抜いて各種大会へ出場する際、守谷市スポーツ少年団大会助成金交付基準に基づき、助成金を交付する。										C	スポーツ文化振興奨励金申請件数						
											D	スポーツ少年団県大会以上出場時の交通費助成の申請件数						
											手段・備考							
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）							
	スポーツ・文化においての功績を称えとともに、大会に出場する際の費用の助成を行い、スポーツの振興を図る。										E	交付者数						
											F							
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	63,920	64,463	64,463	64,933	64,933	64,933									
	B	対象指標	チーム	28	28	27	27	27										
	C	活動指標	件	33	30	29	30	30										
D	活動指標	件	12	20	10	12	12											
E	成果指標	人	117	75	66													
F	成果指標																	
G 事業費	計	千円	4,478	3,698	1,932	1,689	1,689											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
	カ 一般	千円	4,478	3,698	1,932	1,689	1,689											
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	4,478	3,698	1,932	1,689	1,689											
K	臨職賃金等	千円																
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名・補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源									
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度							
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額								
	報償費	171	報償費	171														
	需用費	18	需用費	18														
	負担金補助及び交付	1,500	負担金補助及び交付	1,500														
計		1,689	計		1,689	計			計									

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																	
	平成14年度に要綱を作成し、それに基づいて事業を実施している。守谷市民が全国大会等で活躍することに対する称賛。スポーツ活動の担い手となる。		同じ全国大会でも、競技レベルに差があることから、対象大会の限定や、高校生以上は、よりレベルの高い成績を基準とする内容の要綱の改正を図った。また、スポーツ少年団等の活動に対し、中学生と同等程度の助成ができるようにした。		特になし																	
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																	
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	3月10日号の広報で事業の紹介をし、申請を促す。		削減額 事業費 (千円) 人件費 (千円) 増加額 事業費 (千円) 人件費 (千円) ☒ 予算への影響なし																	
目的 妥当性 (必要性)	1 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？ (事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？)		市民のスポーツ振興を図るための事業であり、「守谷市スポーツ・文化振興奨励金交付要綱」の改正やスポーツ少年団の大会出場に係る助成基準に基づき公正に実施していることから妥当である。																			
	○ 法定受託事業である(根拠法令→) ● 妥当である ○ 妥当性が低い		2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？ ○ 貢献度大きい(理由→) ● 貢献度ふつう(理由→) ○ 貢献度小さい(理由→)																			
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？ ○ あがっている ● 横ばい、停滞している ○ 低下している		3-2 成果がこれ以上向上する余地(可能性)は、ありますか？ ○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し		功績等に対し奨励金を交付することが目的なので成果の向上余地はない。																	
	4 現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む) ○ ある ● ない		市の奨励事業、補助事業であり、対象者1人1人(1件1件)に対して不規則な対応をするための人件費であり削減は難しい。また、交付事業なので受益者負担にはならない。																			
改革・ 予算 反映案【 二次評価 結果】	改革概要・改革により期待される効果																					
	・ 広報掲載することにより、幅広い方々に周知、情報発信をする。 (将来有望な選手の発掘情報としても活用できる。) 平成27年度からスポーツ少年団への大会出場助成金は、「市スポーツ少年団補助事業」に組み換えをする。				改革方向性：拡充 コスト方向性 <table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			削減	維持	増加	向上				維持				低下			
		削減	維持	増加																		
	向上																					
	維持																					
低下																						
改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
3月 広報に事業掲載				特になし																		
改革のスケジュール表																						
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度															
計画	広報掲載																					
特記事項																						

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [567]

位置付け	事務事業名	いばらき若者塾参加補助事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
												担当	生涯学習グループ		担当	内線	274	
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		
	計画年度	平成 19 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		補助		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード	001-100401-15-			外部評価実施年度					外部評価進行管理				経費区分	未設定			
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-100401-15-								
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）												対象指標名（対象の大きさを示す指標）					
	いばらき若者塾事業参加者（必要とされる理由）グローバルな感覚を持ったリーダーを育成する。												A	県全体の募集人数				
													B					
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）												活動指標名（手段や活動内容を示す指標）					
	茨城県が主催するいばらき若者塾事業に参加する青年に参加費の一部を助成する。 【平成26年度概要】 10月19日 開講式・海外研修事前オリエンテーション 11月1～5日 海外研修（フィリピン） 11月23,24日 研修成果のまとめ 12月14日 報告会・閉講式 過去数年間、守谷市からの参加者がいない。												C	参加が決定した際に個人が負担する金額				
													D	研修期間日数				
													手段・備考					
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）												成果指標名（意図達成度合を示す指標）					
	青年がいばらき若者塾事業に参加しやすくする。 青年が海外研修に参加する機会を増やす。												E	守谷市からのいばらき若者塾事業参加者数				
													F	補助金額				
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	10	10	10												
	B	対象指標																
	C	活動指標	千円	200	200	200												
D	活動指標	日	6	8	7													
E	成果指標	人	0	1	0													
F	成果指標	千円	0	100	0													
G 事業費	計	千円	0	100	0													
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
	カ 一般	千円	0	100	0													
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	0	100	0	0	0											
K	臨職賃金等	千円																
ア・国支出金（補助名・補助率）			イ・県支出金（補助名・補助率）			ウ・地方債（名称、充当率）			エ + オ・使用料 その他財源									
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度							
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額								
	計	0	計		計		計		計									

事務事業評価表[B表]
継続・通常

[567]

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点					
	県は、平成19年度から、明日の茨城を担うリーダーを養成するため、人間性の向上と郷土に貢献していくためのスキルアップ研修を中心とした「いばき若者塾事業」を実施している。この事業に、市内在住の青年が参加しやすくなるよう助成事業を実施した。		グローバルな感覚を持ったリーダー育成のため、海外研修事業を実施しており、参加費助成を行ってきた。市内在住のより多くの青年が参加しやすくなるよう助成を継続している。要望等特になし。		特になし					
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善					改革改善に伴う予算への反映				
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持 具体的内容	守谷市からの参加者がいないため、事業廃止の方向で検討を行った。				削減額 事業費（千円） 人件費（千円） 増加額 事業費（千円） 人件費（千円） ☐ 予算への影響なし				
目的 妥当性 （必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		地域に貢献する意欲と広い視野を持った青年リーダーを育てるため、より多くの青年に参加機会を与える事業であり妥当である。							
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い									
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		市内の意欲のある青年に、学習と貴重な体験の機会を提供しており「市民による健全育成活動の推進」に貢献している。過去数年間、守谷市からの参加者がいないので、検討が必要である。							
	○ 貢献度大きい（理由→） ● 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）									
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？	3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？	ここ数年、市内の青年の参加が減少しており、成果が上がっているとはいえない。意欲ある青年を発掘し、この事業に参加してもらえば、県内の青年リーダーのネットワークができ、地域活動が活性化するため、多少の成果向上余地も見込まれる。							
	○ あがっている ○ 横ばい、停滞している ● 低下している	○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し								
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		参加者も研修参加費の1/2を自己負担しており、これ以上の負担は事業の目的から逸脱してしまうため削減の余地はない。							
	○ ある ● ない									
改革・ 予算 反映案【 二次評価 結果】	改革概要・改革により期待される効果									
	過去数年間参加者がいないため平成27年度から事業廃止となり、予算措置もしていない。				改革方向性：休止廃止 コスト方向性 削減 維持 増加 向上 維持 低下					
	改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減					
	特になし				特になし					
	改革のスケジュール表									
	実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)		27年度		28年度		29年度	
	計画									
特記事項										

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [585]

位置付け	事務事業名	大野地区 公民館運営事業										担当	教育委員会		部	生涯学習課		課
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進			基本事業	50	自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供		
	計画年度	昭和 56 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計		
	財務会計コード	001-100404-07-			外部評価実施年度		平成19年度		外部評価進行管理				経費区分	未設定				
	予算概算要求区分		未設定		成果設定年度				備考		001-100404-35-							
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）							
	（対象）大野地区住民 （必要とされる理由）大野地区住民が集う地域コミュニティの拠点である。										A	大野地区人口						
											B							
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）							
	地域住民の生涯学習の場として、講座・教室事業を行う。公民館運営協力員の協力を得ながら、成人教室、生きがい教室、青少年教室等を開催する。										C	開催教室数						
											D	教室実施日数						
											手段・備考	・ 講座・教室事業の内容が、地域福祉活動助成制度の対象事業と類似しており、事業のあり方を考える必要がある。						
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）							
	地域住民が生涯学習活動に参加する機会を設け、参加者相互の学習意欲の向上を図る。										E	参加者数						
											F							
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	3,086	3,110	3,009	3,104	3,110										
	B	対象指標																
	C	活動指標	教室	5	8	5	5	5										
D	活動指標	日	7	8	5	5	5											
E	成果指標	人	162	150	131	150	150											
F	成果指標																	
G 事業費	計	千円	1,119	580	540	679	687											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
	カ 一般	千円	1,119	580	540	679	687											
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	1,119	580	540	679	687											
K	臨職賃金等	千円																
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名、補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源									
事業費内訳	27年度		28年度				29年度				30年度							
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額								
	報酬	23	報酬	23														
	報償費	18	旅費	2														
	需用費	97	需用費	97														
	役務費	84	役務費	84														
	委託料	296	委託料	296														
	使用料及び賃借料	5	使用料および賃借料	23														
	備品購入費	156	備品購入費	162														
計		679	計	687	計			計										

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																	
	地域住民の学習活動の場を提供したものであり、昭和33年開館。		老朽化しており、改修要望が寄せられている。 外部評価により、各自治会・町内会の集会所が整備されているにも関わらず、公民館事業として講座を設けるなど、他地区との公平性が保たれていないとの意見があった。		和室内のサッシ窓に網戸を設置し、清涼感を持たせるとともに、扉が開閉出来なくなった襖戸の更新、開閉出来ない玄関のガラス戸車、電気ブレーカー開閉器の修繕を行う等、施設維持管理上必要最低限と思われることを行い、施設内老朽化への対応に努めた。																	
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																	
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	・運営協力員有志及び定期利用団体代表者による館内清掃及び物品等整理整頓作業を行った。 ・窓ガラス清掃を業務委託したことにより、高所の清掃が可能となった。		削減額 事業費 (千円) 人件費 (千円) 増加額 事業費 (70 千円) 人件費 (千円) ☐ 予算への影響なし																	
目的妥当性(必要性)	1 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？ (事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？)		地域住民が自ら学習する機会を提供する施設であり、妥当である。																			
	○ 法定受託事業である(根拠法令→) ● 妥当である ○ 妥当性が低い																					
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		地域住民の自主的なサークル活動の支援と学習機会の提供であり、貢献度は大きい。																			
	● 貢献度大きい(理由→) ○ 貢献度ふつう(理由→) ○ 貢献度小さい(理由→)																					
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地(可能性)は、ありますか？		学習意欲の向上のために教室等を開催し、自主的サークルが発足するなど一定の成果向上は見られるが、これ以上の向上余地はない。																	
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ● 成果向上余地 小 無し																			
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)		公民館運営協力員の協力を得ながら事業を実施しているため、削減の余地はないが、今後、地域福祉活動との連携や協働の視点での事業展開が可能かを検討する。																			
	○ ある ● ない																					
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果																					
	・外部評価結果を受けて、館長と運営協力員の有志による検討チームを組織し、公民館事業のあり方や公民館の運営について検討する。 ・地域福祉活動との連携や協働の視点での事業展開が可能か社会福祉協議会及び大野地区地域福祉活動計画実行委員会と調整・検討する。				改革方向性：縮小 コスト方向性 成果方向性 <table><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			削減	維持	増加	向上				維持				低下			
		削減	維持	増加																		
	向上																					
	維持																					
	低下																					
改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
運営検討チーム会議の開催(2か月に1回程度) 運営協力員会議の開催(年2回) 関係機関との調整(随時) 地域福祉活動助成事業への移行(平成28年度以降)				特になし																		
改革のスケジュール表																						
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度															
計画	運営検討チーム会議の開催																					
	運営協力員会議の開催																					
	関係機関との調整																					
	地域福祉活動助成事業への移行																					
特記事項		地域住民の理解を要する。																				

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [734]

位置付け	事務事業名	守谷市・常総市・坂東市ハンドボール競技振興会負担金					担当	教育委員会		部	生涯学習課		課	
							担当	スポーツG		担当	内線	272		
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち			施策	14	生涯学習の推進		基本事業	51	生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援	
	計画年度	平成 25 年度 ～ 平成 31 年度			事業区分1	継続		事業区分2	単独		評価類型	未設定	会計区分	一般会計
	財務会計コード	001-100501-11-			外部評価実施年度			外部評価進行管理			経費区分	未設定		
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度			備考	平成25年度款項目 10050111						
事業事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）						対象指標名（対象の大きさを示す指標）							
	守谷市・常総市・坂東市・ハンドボール競技振興会（必要とされる理由）守谷市が開催地となる平成31年茨城国体ハンドボール競技大会を広く周知し、円滑に運営する必要がある。						A	会議数						
							B							
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						活動指標名（手段や活動内容を示す指標）							
	・平成31年茨城国体ハンドボール競技開催地となる守谷市・常総市・坂東市が平成25年度から開催年度まで負担金を交付することにより、国民体育大会及びその他関東大会・全国大会レベルの大会運営にかかる事業費の一部を負担し、大会運営を支援・推進する。 【年次計画】 ・H25～H30 3市のいずれかを会場として開催される関東大会以上の大会に30万円助成 ・H31 国民体育大会に助成						C	大会数						
							D	試合数						
							手段・備考	・市民にとってこの事業を行うことでどのようなメリットがあるか分かりにくい。						
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						成果指標名（意図達成度合を示す指標）							
	・選手の競技力向上や競技役員の大会運営の活性化を図る。 ・市民全体に国体を盛り上げる体制をつくる。						E	県協会登録出場チーム数 / 出場チーム数						
							F	競技役員数						
	4 事業量・コスト・指標の推移													
		区分	単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画		
	A	対象指標	回	1	1	2	2	2						
	B	対象指標												
	C	活動指標	大会	0	0	0	0	0						
	D	活動指標	試合	0	0	0	0	0						
	E	成果指標	チーム	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0						
	F	成果指標	人	0	0	0	0	0						
	G 事業費	計	千円	1,000	1,000	1,000	3,000	10,000						
		ア 国	千円											
		イ 県	千円											
		ウ 地方債	千円											
		エ 使用料	千円											
オ その他		千円												
カ 一般		千円	1,000	1,000	1,000	3,000	10,000							
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0							
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0							
J	トータルコスト	千円	1,000	1,000	1,000	3,000	10,000							
K	臨職賃金等	千円												
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名・補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源					
事業費内訳	27年度		28年度		29年度		30年度							
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額						
	負担金補助及び交付	3,000	負担金補助及び交付	10,000										
	計	3,000	計	10,000	計		計							

事務事業評価表[B表] 継続・通常

[734]

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点																		
	平成31年茨城国体ハンドボール競技開催地に内定し、開催地負担金の支出が見込まれる。共同開催となる3市で構成する振興会に平成25年度から開催年度（平成31年度）まで一定額を積み立てる方法により、開催年度に負担する金額を抑える。		外部評価により、市民にとってこの事業を行うことでどのようなメリットがあるか周知する必要があるとの提言があった。		特になし																		
昨年度の 評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映																		
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	市ホームページに「茨城国体」のコーナーを設け、国体の概要説明と愛称・スローガンの募集、キャラクターの募集などを行った。		削減額 事業費（千円） 人件費（千円） 増加額 事業費（千円） 人件費（千円） ☐ 予算への影響なし																		
目的 妥当性 （必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		開催地として選手の競技力向上や大会運営の活性化を支援することが目的であり妥当である。																				
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い																						
有効性	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		開催地として大会をバックアップするとともに、市民に全国レベルの大会を観戦する機会を提供することができ、「生涯スポーツのきっかけづくりと自主的な活動の支援」に貢献している。																				
	● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）																						
効率性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		国体開催時の経費を抑えることに十分成果を上げている。																		
	● あがっている ○ 横ばい、停滞している ○ 低下している		● 成果向上余地 大 ○ 成果向上余地 中 ○ 成果向上余地 小 無し																				
改革概要・改革により期待される効果	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		3 市協議により決定した国体開催に向けての経費であり、削減の余地はないが、市民参加の大会運営を行うことで、市全体で国体を盛り上げる体制をつくる。																				
	○ ある ● ない																						
改革・予算反映案【一次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果				改革方向性：拡充 コスト方向性																		
	準備委員会～実行委員会の発足、国体推進室の開設に係る必要な経費を支出し、3市共同開催が円滑に行われる組織運営を図る。守谷市をPRする資源の一つとして、市内外に国体開催を周知する。				<table><tr><td rowspan="3">成果方向性</td><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		成果方向性		削減	維持	増加	向上				維持				低下			
成果方向性		削減	維持	増加																			
	向上																						
	維持																						
低下																							
計画	改革の時期・スケジュール				改革実施による予算・人員の増減																		
	国体開催の周知（通年） 国体準備委員会設立準備（4月～10月） 国体準備委員会発足（11月） 国体推進室開設準備（10月以降） 国体推進室開設（平成28年度）				負担金（積立）200万円増 国体事務専任1名増																		
特記事項	改革のスケジュール表																						
	実施事項の項目名	実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度																
計画	国体開催の周知																						
	国体準備委員会設立準備																						
	国体準備委員会発足																						
	国体推進室開設準備																						
	国体推進室開設																						

評価区分 ● 通常 ○ 成果指標付簡易 ○ 簡易 [58]

位置付け	事務事業名	アーカスプロジェクト参画事業										担当	総務部		部	企画課		課
	総合計画体系	政策	03	こころ豊かに暮らせるまち					施策	14	生涯学習の推進		基本事業	52	親しみを感じる芸術・文化の推進			
	計画年度	平成 07 年度 ~ 年度			事業区分1		継続		事業区分2		単独		評価類型	5類		会計区分	一般会計	
	財務会計コード	001-020107-05-			外部評価実施年度				外部評価進行管理				経費区分		未設定			
	予算概算要求区分	未設定		成果設定年度				備考		001-020107-05-								
事務事業の目的と成果・コスト	1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）										対象指標名（対象の大きさを示す指標）							
	・アーカスプロジェクト招へいアーティスト ・守谷市民 （必要とされる理由） ・芸術により地域の活性化を図る										A	招へいアーティスト数						
											B	常住人口						
	2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）										活動指標名（手段や活動内容を示す指標）							
	・茨城県主催のアーカスプロジェクトを支援する。 運営：県，市，関係機関からなる実行委員会（県事務局） 内容：・レジデンス事業（海外若手芸術家の育成） ・地域事業：ワークショップ，アートセミナー，HIBINO HOSPITALなどの開催 ・日本人若手アーティスト支援事業 など （市の支援内容） ・作家制作の場としてもりや学びの里を提供 ・負担金として500万円を拠出 ・市内イベント活動等の運営支援 ・事業広報活動										C	開催事業数						
											D							
											手段・備考	・市民へ継続的に貢献できているか，誰のために行っている事業かが分かりにくい。 * 茨城県は，文化庁助成金の期限予定である平成27年度を一応の目安として，当該事業を継続する予定である。						
	3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										成果指標名（意図達成度合を示す指標）							
	・若手現代美術作家に創作活動の場を提供する。 ・守谷市民に現代芸術を体験する機会を提供する。 ・市民の芸術に対する関心を高める。										E	招へいアーティストの平均滞在日数						
											F	事業に参加した市民の数						
	4 事業量・コスト・指標の推移																	
	区分		単位	25年度実績	26年度当初	26年度実績	27年度当初	28年度要求	28年度調整	29年度計画	30年度計画	全体計画						
	A	対象指標	人	3	3	3	3	3										
	B	対象指標	人	63,313	63,856	63,856	64,326	64,326	64,326									
	C	活動指標	回	66	66	43	45	45										
D	活動指標																	
E	成果指標	日	100	100	100	100	100											
F	成果指標	人	2,970	3,000	1,799	3,000	3,000											
G 事業費	計	千円	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000											
	ア 国	千円																
	イ 県	千円																
	ウ 地方債	千円																
	エ 使用料	千円																
	オ その他	千円																
カ 一般	千円	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000												
H	正職員人工数	人工		0	0	0	0											
I	正職員人件費	千円		0	0	0	0											
J	トータルコスト	千円	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000											
K	臨職賃金等	千円																
ア．国支出金（補助名・補助率）			イ．県支出金（補助名・補助率）			ウ．地方債（名称、充当率）			エ＋オ．使用料 その他財源									
事業費内訳	27年度		28年度				29年度		30年度									
	事業内容	予算額	事業内容	計画額	事業内容	計画額	事業内容	計画額										
	負担金補助及び交付	5,000	負担金補助及び交付	5,000														
	計	5,000	計	5,000	計		計											

環境変化	1 事業開始背景・立案事由		2 事業をとりまぐ環境変化と市民 議会の要望		3 過去2年間の事務事業内容の変更点			
	地域活性化を目的に、県事業の「国際芸術文化交流拠点整備構想（アーカス構想）」を誘致。平成6年度に試行、翌7年度から「アーカス構想パイロット事業」として本格的展開開始。平成12年度から「アーカスプロジェクト」として現在に至る。		・平成9年から市の負担金発生。協賛金・助成金が減少する中、資金確保が重要課題／・参加者からは、事業の継続と周知広報の充実を望む意見あり／・一般市民からは否定的な意見あり／・議会からは市イベント参加推進、地域おこしの要望あり		平成24年度は、ア・ズ'の空きスペースを利用してイベントをシリーズで開催したが、平成25年度は、学びの里耐震工事、助成金の減により、イベント回数が減少。			
昨年度の評価結果	昨年度の事務事業評価結果を受けて取り組んできた改革改善				改革改善に伴う予算への反映			
	○ 終了 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 改善 ○ 統合 ● 現状維持	具体的内容	平成26年度は、学校との日程調整ができず、アーティストインスクールを実施することができなかった。そのため、市民の事業参加者数が減っている。 事業数も減少しているが、全国でも例のない事業（だいちの星座プロジェクト）を実施し、注目を集めることができた。		削減額	事業費（千円） 人件費（千円）		
増加額			事業費（千円） 人件費（千円）	☒ 予算への影響なし				
目的妥当性（必要性）	1 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？（事業の目的は、市の役割や守備範囲に合っていますか？）		県事業を市に誘致した経緯がある。親しみを感ずる芸術・文化の推進の一助となる。					
	○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い							
	2 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？		親しみを感ずる芸術、文化の推進として、アーカスプロジェクト事業を支援しているが、本事業の主題は現代アートであるため、難解とのイメージがあり、市民への浸透は十分とはいえない。県事業への負担金なので、他事業との統合はできない。					
	○ 貢献度大きい（理由→） ● 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→）							
有効性	3-1 成果は順調にあがっていますか？		3-2 成果がこれ以上向上する余地（可能性）は、ありますか？		市民が受け入れやすいイベント等を実施し、成果を上げていく。			
	○ あがっている ● 横ばい、停滞している ○ 低下している		○ 成果向上余地 大 ● 成果向上余地 中 ○ 成果向上余地 小 無し					
効率性	4 現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）		市の負担金をなくすと、事業を行うことができないので、コストの削減は難しいが、今のコストの範囲で内容の充実を図っていく。					
	○ ある ● ない							
改革・予算反映案【二次評価結果】	改革概要・改革により期待される効果							
	アーカスプロジェクトの今後のあり方等検討委員会の検討結果を受けて、新たな運営方針を検討し、平成28年度以降に、市の事業目的に合致させていくような改善策を打ち出していく。				改革方向性：拡充 コスト方向性			
					成果方向性			
					削減			
					維持			
					増加			
					向上			
					維持			
					低下			
	改革の時期・スケジュール							
改革実施による予算・人員の増減								
平成27年度に新たな運営方針を検討し、平成28年度以降に改善策を実行。								
特になし								
改革のスケジュール表								
実施事項の項目名		実施時期(単位：四半期)	27年度		28年度		29年度	
計画	新たな運営方針を検討							
	新たな運営開始							
	改善策の実行							
特記事項		イベント内容のみならず、開催日や時間帯も含めて、市民が受け入れやすいイベント等を検討することにより、事業に参加する市民の数の増加が図れる。						